

平成24年度第2回 広島市都市デザインアドバイザー会議 会議要旨

1 開催日時

平成25年（2013年）3月26日（火曜日）

15:00～15:30 現地視察（広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキ）

15:30～17:15 会議

2 開催場所

広島市東区地域福祉センター3階大会議室

3 出席者等

(1) 委員 岡河座長、岩重委員、岩本委員（欠席）、及川委員、清田委員、
藤井委員、伏見委員、若本委員

(2) 傍聴者 1名

(3) 報道関係者 3名

(4) 広島市関係者

ア 道路交通局街路課広島駅周辺道路整備担当

永川課長、世古課長補佐、永井主任技師、安野技師

イ 株式会社長大（4人）・・・広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキ

ウ 西日本旅客鉄道株式会社（1名）・・・広島駅南北自由通路

エ 都市整備局都市計画課都市デザイン係（事務局）

長光課長、宮田主幹、金谷専門員、宮脇主任技師

4 議題（公開）

議題1 広島駅新幹線口ペDESTリアンデッキ整備事業（第1回目）

議題2 広島駅自由通路整備事業（第2回目）

5 会議資料

会議次第

出席者名簿（委員、広島市関係）

配席図

資料1 広島駅新幹線口ペDESTロリアンデッキ整備事業

資料2 広島駅自由通路整備事業

参考資料1 広島市都市デザインアドバイザー会議運営規程の改正

参考資料2 広島市都市デザインアドバイザー会議運営規程

参考資料3 二葉の里地区まちづくり基本計画

参考資料4 二葉の里地区まちづくりガイドライン

6 発言の要旨

以下のとおり。

【議題1 広島駅新幹線口ペDESTロリアンデッキ整備事業】

○岡河座長

それでは、議事に入ります。

まず、議事の1番目といたしまして、先ほど現地調査を行いました「広島駅新幹線口ペDESTロリアンデッキ整備事業」について御説明をお願いいたします。

○永川課長

道路交通局道路部街路課長の永川でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、「広島駅新幹線口ペDESTロリアンデッキ整備事業」について御説明させていただきます。着席で説明させていただきます。

まず、資料のほうの、A3判になりますけども、1ページのほうをお開きください。

「新幹線口ペDESTロリアンデッキ整備事業」と書いてあるものでございます。広島駅新幹線口ペDESTロリアンデッキ、これ、ちょっと長いんで、この先ペデと読ませていただきますけども、その概要について説明させていただきたいと思います。

まず、1の目的ですが、本市では広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東西の核とする楕円形の都心づくりというものを推進しています。

当ペデの整備は、広島駅自由通路とともに、都心の東の核である広島駅周辺地区の一層

の活力とにぎわい、これを高めるため、同地区の歩行者の回遊性の向上を図ろうとするものです。

2のほうの事業概要ですけれども、ペデの幅員、これは歩行者の自由な歩行が可能な寸法ということで、広場中央に設置するものが6メートル、その他のもの、いわゆる駅の前面、また東側、西側ペデについては4メートルを基本としております。

総延長で約450メートル、このうち東側の約40メートルにつきましては、先ほども見ていただきましたけれども、既に若草地区の再開発事業、この整備に合わせて平成22年度に整備を完了しております。今回、御意見をいただきます部分につきましては、平成23年度に事業着手し、遅くとも自由通路の供用開始までの完成を目指して進めていくこととしております。

総事業費が約31億円、これは整備済み区間を含んでの事業費になっております。

次に、3の施設配置図のほうですけれども、ペデにつきましては、本市においても現在整備を進めています広島駅の自由通路、これと2階レベルで連絡し、二葉の里地区などへの歩行者の回遊性を高める施設となってまいります。

4の経緯のほうでございますが、平成21年5月、二葉の里地区及び広島駅自由通路等の整備に関する合意を中国財務局、広島県、広島市、UR都市機構、そしてJR西日本、この5者において結んでおります。平成22年1月には広島駅自由通路を都市計画決定しまして、当ペデにつきましても、新幹線口地区の地区計画に位置づけております。

5の現状ですけれども、当ペデにつきましては、昨年11月に実施設計のほうに着手しまして、現在、設計作業を進めている最中でございます。来年度、平成25年度には建設工事に着手することにしておりますけれども、本日のアドバイスを参考に、引き続き、設計を進めていきたいと思っております。

2ページ目のほうをごらんください。

ペデの景観整備の方針をまとめております。

まず、1の整備コンセプトですけれども、平成23年12月に市政推進に当たっての基本コンセプト、これを市長のほうで公表しておりますけれども、その中に『世界に誇れる「まち」の実現に向けて』というところにおいて、本市が広島県全体の活力を生み、さらには中国四国地方の発展を牽引する存在となるために、「活力にあふれにぎわいのあるまち」の実現に向けた取組を進めることにしています。

その取組の一つとしまして、広島の陸の玄関である広島駅周辺地区、また、紙屋町・八

丁堀地区、この二つの都心を東西の核とする楕円形の都心づくりを推進しているところです。

当ペデの整備につきましては、広島駅自由通路と一体となって、駅周辺地区の一層の活力とにぎわいを高めるために、また、歩行者の回遊性の向上を図るものです。

一方、現在広島駅新幹線口では二葉の里土地地区画整理事業が進んでいます。この土地地区画整理事業の実施に当たっては、国、広島県、広島市などが二葉の里地区まちづくり基本計画、先ほど説明ありましたが、また、まちづくりガイドライン、こういったものを策定しております。

この基本計画では、まちづくりの方向性の一つとして、広島の顔にふさわしい玄関づくり、また、ガイドラインにおいては、遵守事項としまして、JR広島駅から二葉の里が眺望できる空間の確保、そういったものが掲げられております。

こうしたことを踏まえまして、このペデの整備コンセプトにつきましては、この枠の中にありますけども、まず、市政推進に当たっての基本コンセプトから活力とにぎわいの創出、また、二葉の里地区まちづくり基本計画の中から広島の顔にふさわしい玄関づくり、また、同ガイドラインから二葉山の緑豊かな景観との調和、この三つをコンセプトとして計画をしております。

まず、1番の活力とにぎわいの創出ですが、活力にあふれ、にぎわいのある『世界に誇れる「まち」』を目指して、回遊性が高く、駅ビルや周辺施設と一体感のあるにぎわい空間を創出します。

また、2としまして、広島の顔にふさわしい玄関づくりですが、広島の陸の玄関であるJR広島駅にふさわしく、開放的で居心地のよい空間を創出します。

3としまして、二葉山の緑豊かな景観との調和ですが、広島デルタの青垣山である二葉山が眺望できる開放感にあふれた空間を創出します。

こうしたことを踏まえまして、2番に整備コンセプトから求められるデザインの方向性といったものを整理しております。

まず、今回整備するペデにつきましては、資料の右側、一番上に図の1というような配置がございます。また、3ページのほうには少しこれを大きく拡大したものもございますけども、配置としましては、この図1に示すような配置となっております。

ここで、一応広場の中央に設置されるもの、自由通路から真っすぐ中央に配置されるものを中央ペデ、駅ビルに沿って東西方向に設置されるものを東西ペデ、広場西側に設置さ

れるもの、グランヴィア側になりますけども、それを西側ペデということで整理をさせていただきます。

この整理の中で、まず、全体に共通して配慮すべき事項としまして、左側の脇になりますけども、それぞれのペデの位置ごとに配慮すべき事項というものを整理しております。

これによりましてデザインの方向性を導き出していきたいと考えております。

まず、全体に共通して配慮すべき事項としましては、まず、（ア）二葉山が眺望できる開放感、（イ）としまして、周辺建物から俯瞰されることへの配慮、これは周辺のホテルなどから屋根が見えているといった点になりますけども、そういった2点を挙げております。これらが全てのペデに共通する事項です。

まず、（ア）の二葉山を眺望できる開放感につきましては、現在、広島駅新幹線口において整備が進んでおります二葉の里地区土地区画整理事業のまちづくりガイドラインにおいて、駅から二葉山への眺望を確保することが遵守事項として掲げられているといったことから、今回の整備をするに当たっても重要な事項であると考えております。

また、（イ）の周辺建築物からの俯瞰ということに関する配慮としましては、広場周辺に位置するホテル、また駅ビル、そういったところから俯瞰されることになりますので、上屋のデザインについて配慮すべきであると考えています。

次に、配置位置ごとに配慮すべき事項になりますけども、まず、中央ペデにつきましては、広島駅自由通路の延長線上に位置する、駅の自由通路から延長線上に真っすぐ来るといったこと、また、駅前広場の中央に配置されるということから、二葉の里地区の陸の玄関であるJR広島駅へと続く、歩行者のメイン動線となります。いわゆる広島駅新幹線口の顔といったものです。このため、（ウ）に書いておりますけども、中央通路としての存在感、（エ）としまして、自由通路との連続性、（オ）としまして、ゆとりのある空間の創出、以上の3点としております。

次に、東西ペデにつきましては、JR西日本が増築を計画しておりますけども、この駅ビルに接して配置されるということになります。増築される駅ビルの1階及び2階には、今回設置する東西ペデの全区間、全線にわたり店舗が配置される、その店舗の出入り口はビルの北側に設置される予定です。そのため、2階店舗利用者の多くは東西ペデを利用するということになります。また、1階の店舗の利用者、これは東西ペデの桁下空間を利用するということになります。また、ペデの桁下、これは歩道としての機能も持ち合わせるということになります。

このようなことから、東西ペデにつきましては、（カ）とありますが、まず、にぎわい空間の創出、（キ）としまして、周辺施設（駅ビル）との一体感、（ク）としまして、桁下空間の有効利用、そういったものを整備コンセプトとして配慮すべき事項としております。

西側ペデ、この広場の西側に位置しますペデにつきましては、ホテルグランヴィアの前面に配置されることとなります。また、ペデの桁下は、東西ペデと同様に歩道としての機能を持ち合わせるということとなります。このため、周辺施設（ホテルグランヴィア）との一体感、また、（ク）としまして、桁下空間の有効利用としています。

これらの整備コンセプトを踏まえて、配慮すべき事項から、各ペデのデザインの方向性、これを導き出してはおりますけど、まず中央ペデにつきましては、存在感及び開放感のあるデザイン、東西ペデ及び西側ペデは、配慮すべき事項が非常に類似しているといった点から、同様の方向性として、周辺施設と一体的で開放感のあるデザインとしております。

資料の中央に、この下側の四角のほうに各ペデのデザインの方向性と、それを実現するための構造的な特徴を示しております。構造的な特徴につきましては、配慮すべき事項の記号、（ア）、（イ）、（ウ）、（エ）、（オ）、そのどれに該当するかといったものをちょっとあわせて掲載しております。

3 ページのほうをお開きください。

これはペデの配置図になりますけども、先ほど御説明しました配慮すべき事項などを、それぞれの各ペデについて図示したものになっております。

まず、東西ペデの幅員は4メートルを基本にしてはおりますけども、これについては、駅ビルと一体となったにぎわい空間を創出するといった観点から、膨らみを持たせ、主に自由通路との接点になりますけども、最大約9メートルの幅を確保するようにしております。

また、中央ペデと東西ペデとの接続部、これは自由通路との連続性を確保して、また、歩行者の動線がスムーズになるように広幅員とすることで、ゆとりのある空間を創出することとしております。ちょうどこの図面中央の、いわゆる中央ペデのつけ根部分、約9メートルと表示があります、そういったところで配慮していくということでございます。

次に、4 ページのほうをお開きください。

これは、新幹線口広場の二葉山方面から見た全体のイメージパースです。ちょうどJRの今、支社がありますけど、その上のあたりから見たイメージだと思っていただきたいと思います。

5 ページ目のほうに、これは各ペデの詳細のパースを入れております。ここでは各ペデの断面的なイメージのほうを見ていただけたらと思います。

まず、右上にありますのが中央ペデの図になります。中央ペデにつきましては、陸の玄関としての存在感を示すとともに、開放感のあるものにするといったことから、上屋の支柱を通路の中央に設け、屋根材の一部を透過性のあるものにしてあります。

下側にあります三つの図の左側と真ん中が東西ペデ、駅ビルに接する部分です。右側が西側のペデ、いわゆるグランヴィア側のペデになります。

まず、一番左の図につきましては、東西ペデと中央ペデとのその接合部付近、約9メートルと広幅員となった部分のイメージになっています。

東西ペデ及び西側ペデ、これにつきましては、駅ビルやホテルグランヴィアの前面に設置されるということで、上屋の支柱は駅ビルなどの建物側に配置、柱を建物側に配置しております。また、支柱間隔を建物の柱間隔と合わせるということで周辺施設との一体感を持たせるということにしております。また、屋根のほうを片持ち式の上屋とし、中央ペデと同様に屋根材の一部を透過性のあるものにするということで、開放感のあるものとしてあります。

東西ペデ及び西側ペデの桁下につきましては、歩行者空間としても有効活用ができるようにということもございますので、いわゆる二脚柱式、いわゆる1階部分がアーケードのようなぎわいの空間を創出するといった形状を計画しております。

6 ページのほうをお開きください。

これは広場の東側から西側に向かってペデを見たイメージになっております。

最後に、7 ページのほうに、これは現況写真でございます。この写真はJ R西日本の支社の屋上から撮影したものですけども、4 ページの全体イメージパースとあわせて見ていただくと周辺の施設とのイメージがよく分かるんじゃないかと思えます。

簡単ではありますが、ペデのほうの説明を以上で終わらせていただきます。

○岡河座長

はい、どうもありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対して、委員の皆様から御質問、御意見等をお願いしたいと思います。

○藤井委員

よろしいですか。初めてで済みません。

初めてなのでよく分からないんですが、これはどの辺まで決まって、どの辺なら動かせるかというのをちょっと教えていただきたいんですが。

○永川課長

まず、基本構造、一番分かりやすく言えばこの詳細パース、断面図がありますけども、基本的にはこの断面、あと柱の形状、基本的なこの形はこのままで考えております。これに加えて、いろいろアドバイスをいただいて、これを多少加工していくということは当然考えてやっていきたいと思うところです。基本構造はちょっと固持をしていきたい。いわゆる幅員であるとか、このペDESTリアンデッキのまず下部が2脚であったり1脚であったり、また上部の張り出し構造であるとか、また透明感のあるものを使っていると、そういったところはこのままでいきたいと考えております。

ただ、実際、例えば歩道をもう少し、手すりをもう少し曲線を使ったらどうかとか、そういったものは考えていきたい。それとか、この隅切り部分でも、今、例えば真っすぐになっておりますけども、そういったところの動線を考えたらもう少し丸みを持たせたほうがいいんじゃないかとか、例えば9メートルじゃない、もう少し膨らませたほうがいいんじゃないかとか、そういったところは調整していきたいと思います。

○藤井委員

例えば、5ページの下の左の図なんですけれど、これ、有効幅員9メートルありながら、要するに屋根が部分的ですよ。こういったところなんかは簡単に変わるということでしょうか。要するに、ここ全面を覆うというのは。

○永川課長

張り出しの片持ち構造となっている点で考えれば、余り極端に広くすることはできないかとは思いますが、考え方としては、通路としての4メートルに屋根をかけようということ、今、この屋根がですね。

○藤井委員

せっかくならば、別に片持ち式の屋根にする必要は全くないような気もするというのが私の意見なんですが。それはもうだめですということなんでしょうか。

キャンテレバーにするというのは、それなりに両サイドを支えるよりは、はるかにややこしい話になるんですよ。それをやる必要があるのかどうかという御検討をもう既にされてるんですか。

○永川課長

これは、一応、今、駅を、自由通路を出て正面ということなんですけども、ここからいわゆる先ほどの二葉山の軸線、それが何も障害物もなしに見えるというのを確保しようということで、完全な片持ち式で、実は構造は決めているといったことがございます。

○藤井委員

むしろ、一つのベクトルとしていくのであれば、中央のペDESTリアンデッキは真正面にずっと、二葉山に向かって何かベクトルがあるというようなことを考えてらっしゃるんですか。

○永川課長

平面図、配置図の大きなものがあるんですけども、3ページのほうを見ていただきますと、二葉山への眺望ということで方向を、三角を示しておりますけども、方向としては、この駅をおりて、矢印の角の部分がいわゆる真北ですね、真北が二葉山ということになっております。基本的にはこの方向について、かなり開放感があるものにしたいというのを考えて形状を決めてきています。

○藤井委員

その辺の哲学というのは全然、私は持ってないけど。

○岡河座長

ちょっと私もそこが大きな問題だと思うんですが、アドバイザー会議を、これだけの人を集めて一体どこの何をアドバイスするのかということにつきましては、本当はもう少しコンセンサスをきちっとというふうに思うんですが、工事のいろんな、時間の問題、それから現実の恐らく予算を含めたところでかなりのレベルの、今時点で、この上でアドバイザー会議でできることに全力を挙げるといような、今は状況のようです。

それはそれでも、やっぱり可能な限り、せっかく今、広島駅の北口というのは大変、恐らくこれから広島で大きな意味を持つところなので、しかも自由通路とこのデッキは駅の南と北を結ぶと、しかも24時間の、これはもうこれから通路になるということで、ほとんど道路と同じぐらい重要な位置付けにやっぱりなるものだというので、今の時点である程度の可能な限りというふうに認識をしております。

私は、実はちょっとキャンテレーバーの問題についてはもうそんなに、先ほど言われたように開放感ということと、少なくとも北側の、どう見えるかはまだこれからのビルの建ち方にもよるんだと思うんですけども、二葉山に対して眺望を、妨げるものをなくした上屋

にしようという方針だというふうに理解をしているんですが。

中央ペデの幅員が6メートル、3メートルがキャンテレバーですよ。東西と西側のペデは4メートルがキャンティレバー。その1メートルの違いで、上からテンションでつづてますよね。テンションでつれば、それは楽になると思うんですが、そのことでディテールは複雑になるし、それから、細い実は鉄筋ですよ、それとH鋼とかそういう丸鋼の耐久力の差みたいなものがちょっと心配なんです。構造的にもしも上のテンションがなくても済むんなら、もう少しすっきりと大きい格好で、H鋼なり形鋼でキャンテレバーができる、そういうふうなことは検討があり得るのか、ちょっとそれをお聞きしたいです。

○(株)長大

多分そのとおりだと思うんですけど、片持ちに対しては、実はそのステイは吹き上げが発生するものですから、パイプになっております。

○岡河座長

パイプなんですか。

○(株)長大

101φ、今、パイプを想定しておりまして、吹き上げに対しても圧縮でもたせるということ想定しています。

○岡河座長

圧縮でもたせるということですか。

○(株)長大

はい。

○岡河座長

つってるんじゃないくて。

○(株)長大

はい。つってるだけじゃなくて、抑えてるというような形で。

それで、あと部材は確かにおっしゃるとおりステイをとりました場合、少し全体的にごつくなるんじゃないかというような。一応、今の想定は、張り出しは300程度の精度せいのH鋼とボックス梁を今、想定しています。

○岡河座長

300のHのH鋼ですね。

○(株)長大

はい。手前の根元のところは、ボックス張りとして300のボックス程度を考えております。

○岡河座長

根元はボックスの300。

○(株)長大

はい。今、申し上げたように、ステイは101φのパイプを考えております。

○岡河座長

これはペイントですか、どぶづけですか。

○(株)長大

原則的にどぶづけしなきゃいけないというふうに思っております。耐久性とかを考えるとどぶづけしなくてはいけないかと。

○藤井委員

ということは、スチールですか。

○岡河座長

スチールのどぶづけですね、亜鉛メッキということですね。

○(株)長大

一応前提として考えております。

○藤井委員

化粧の話ですか、例えばサスとか。

○(株)長大

その上に一応塗装を考えております。

○藤井委員

塗装ですか。

○岡河座長

どぶづけした上で塗装するということですね。

○(株)長大

はい。

○岡河座長

色をつけるのは。亜鉛メッキの上からシーラーかけて塗装するような形になるんですね。

○(株)長大

そうです。

○藤井委員

これ、例えば1本柱じゃなくて、これ曲げて屋根に持っていったらだめなんですか。

○(株)長大

柱を建てて。

○藤井委員

いやいや、こういうカーブで持っていくというのは、一体構造として。例えばです。

○(株)長大

ちょっと、済みません、断面検討してみないと、ちょっとそれで。

○藤井委員

300ぐらいの断面が要るといったら、相当なでかい柱が。

○(株)長大

多少補足いたしますと、変形量を建築物として今、理解しておりますので、500分の1でしたっけ、一応抑えるということで、応力的にもたないというんじゃないくて、変形を抑えるという意味で、500分の1以内にしようとすると今の断面になっています。

○藤井委員

それ、荷重は風ですね。

○(株)長大

ほとんど風です。

○藤井委員

ほとんど風でしょう。一体化すると、恐らくピンでとられているから、その変形でしょうけど、一体化すると小さくはなりませんかね。難しいですかね。

○(株)長大

いや、済みません、そこまでちょっと私も専門でございませぬので、検討してみますけども。

○岡河座長

ちょっと、実はそれ、先端がガラスですよ。

○(株)長大

はい。

○岡河座長

梁の上にガラスを乗せて。しかもボックスの上の、要するに躯体の外側は大鼓にして、何らかの形で囲うという形ですよ。躯体。

上からあおりをとめるのが突っ込んできて、ガラスが入ってきて、いずれにせよシールでとめてという。そうか、最後に溶接になるか。要するに仕上げ材と防水の間がシールのようなものを結構たくさん使うのではないかと、ちょっとそれを心配してるんですよ。そこから水が入ってきて、内部に、ちょっと建築の場合、このディテールでやると、いずれ雨が漏ってくる。雨が漏ってきて、土木構築物はずっとほっとくとさびて、要するにここは非常に長い間耐久力のいる、実は場所ですよ。それで、例えば途中でちょっと都合が悪くなったからって、足場を組んで通行止めにやっぱりしにくい場所だと思うんですよ。それで、ちょっとこのディテールがそういうメンテナンスというところで、もしもなくて済むなら、より強靱なインフラストラクチャーになるのではないかとというところで、先ほどのステイについてはお聞きしたんです。

それから、ガラスの突先の、それはやっぱりディテールの工夫で水が中に入らないようにはできるかもしれないと思うんですが、いずれにしてもパネル、いずれにしても上ではもうやっぱり1枚で、長尺でいくわけにいかないんで、継がなきゃいけないし、防水その他もそこで取り合いがどうなるのかというのはちょっと、建築でおさめるときにはそれなりの少し、どうしても建築の場合には雨が漏ると非常に派手に見えるものですから、外部だと余りそうでもないのかも、ちょっと分かりませんが、その辺ちょっとお聞きしたい。水の中の、ボックスの中への侵入についてはどういうふう考えているか教えてください。

○(株)長大

おっしゃるとおりで、私も建築の人間でございますので、雨漏りは一番嫌なことなんです。土木のいろいろな方と御相談する中では、やはり、おっしゃるとおりシールとか何かだけで100%とめることは、多分長い目で見たら無理だと思います。

○岡河座長

無理ですよ。シールは5年だったら切れますね、やっぱり。

○(株)長大

基本的に、それが切れたときにどこから水が入ってくるかで、その水をじゃあどういふふうに出すかというようなところのバックアップとしての排水経路をこの中に取り込もうと思っております。

○岡河座長

そうですか、はい。

○(株)長大

ですから、万が一そういうふうに入ったときは、入っていることがまず分かるとか、分かったらちゃんと排水できてるとか、それから、上の方の補修を必要ならばするというこ
とで、そういう意味での二重構造などでやっていきたいと思っております。

○岡河座長

そうですね。それと一緒に、ぜひ、実は雨樋のおさまりが大変難しいと思うんですよ。
特に、キャンテレバーのところでのおさまりとか、いずれにしてもその辺を少し総合して、
先ほどの内部への水の侵入の出し方と雨樋の処理の仕方というのを一緒に検討をしていた
だければ、より安心して長く使えるものになるような気がいたします。

○(株)長大

おっしゃる意味は大変よく分かりました。努めてそこを重点に、私どももそれを気にし
ておりますので、一生懸命その辺は考えてやっていきたい。

○岡河座長

そうですね。そういうところで、上の、つりというか、煽り止めがなくてもよければ、
何か私はそのほうが心配がない感じがちょっとしています。それはまた御検討ください。

○(株)長大

はい、分かりました。やらせていただきます。

○藤井委員

済みません。よろしいですか。

雨が、要するに使用勝手というか使い勝手の話なんですけれども、5ページの下の左の
ように、半分、例えば雨の日に水が入ってくるというのは、やはり何か対応したほうがい
いんじゃないかというのは私の意見なんですけれども。要するに、せっかくペDESTリアン
デッキをつくっても、雨の日は余り使えないということにならないでしょうか。ですから、
デッキそのものは普通ならば、吹き込んでくると、それはしようがないんですけれども、
普通の雨が降ったら十分使えるというような配慮はいかがでしょうか。

○(株)長大

それは、デッキの幅分出したらどうかとの御意見でしょうか。

○藤井委員

はい。そうしないとというか、実際に屋根がデッキよりも外に出たら普通みんな自由にそこを通るんですけども、雨の日を見ますと、もし少なかったら、大体もう屋根の下をみんな通るわけで、その部分がデッドになりますよね。

○(株)長大

できないということではなくて、拡張するのは幾らでもできると思います。あとは人の流れとか、一応推計値で今、4メートルというのがマックスの幅員で計算されておりますので、膨らませた理由は、先ほど課長さんがおっしゃってたように、一応自由通路との関係性の中で、空間に少したたずむ場所とか、ゆとりをつくりたいというところがメインでございまして、そこに全部屋根をかけるということはなかなか、正直言ってコストも含めて考えたんですが、ちょっと厳しいかなということと、屋根の片持ちのある面だと当然ある限界は出てきますので、出せる寸法というのも決まってくると思います。

それから、あとはコストの問題と技術的な問題と、それからあとは、先生もお分かりのとおり、出してきましたと、どんどん先端が高くなってきて、なかなか形状としても難しい形になるということもいろいろ検討した中で、4メートルで一応抑えておこうということです。

○藤井委員

キャンテレバーを変えられるんですかというのは、最初聞いたんですけど、それが無理でしたら仕方ないんですが。

ちょっと別の話なんですけど、これを見ますと、エレベーターはそれぞれのポイントでついているんですけども、エスカレーターとか、そういうふうなものは計画に入らないんでしょうか。

○永川課長

このペDESTリアンデッキには、ちょっとエスカレーターは、ちょうどこの部分、中央ペデの広場の真ん中の付近に階段が2列並んでる絵があると思うんです。平面図を見るとですね、基本的には、この位置にはエスカレーターを一応検討していきたいと考えています。

○藤井委員

これは、最終的にはバス乗り場になるんですか。

○永川課長

バス乗り場になります。そうすると、基本的に、主には観光バス乗り場を予定していますが、ただ、実際に、今、まだ広場のレイアウトが完全に固まっていないので、これで決定ということではないんですけども、決定してないということだけちょっとお含みおき願いたいと思います。

○藤井委員

とすると、その西側のペデの二重のところ、グランヴィアの少し上のところにエスカレーターが1台あって、これがバス乗り場に。これは普通の階段ですか。

○永川課長

普通の階段です。

○藤井委員

正面の降り口とか上り口とか、この辺は、要するに上りだけというのではなくて、昇降、上下ですね、下りも上りもエスカレーターをつけるというようなことは駄目なんですか。

実は、岡山駅がこれ結構近いんですけども、岡山駅は、どこにもというのはないんですけど、必ず上りと下りのエスカレーターが付いているんですよ。ですから、これだと岡山駅に負けますって思ったんですよ、一瞬。岡山駅はもちろん中央のペDESTリアンデッキの中に商店が入っていて、それをずっと突き抜けていくとすぐ両サイドの上りも下りもできるようになってるとか、ちょっとあの辺のものを考えると、こっちのほうがちょっと貧弱かなという気がしました。

もちろん岡山駅は中央でビルに入りますよね、何て言うんですか、分からないけど。別に対抗しようという話じゃないんだけど、せっかく広島ですから、負けたら悔しいなど。

○永川課長

エスカレーターということ言えば、当然ビルに関しては駅ビルの中、あと、東側であればアクティブインターシティ広島のビルの中のエスカレーター、あと、今のところグランヴィアとも一応接続ということ、施行主体はグランヴィアのほうになりますけども、接続という面言えば、グランヴィアの中にもエスカレーターは当然あるので、そういったことの利用は当然できるかとは思っていますが、このペデ自体には、この北側道路を横断したところ、そういったところに今は計画はしていません。

○藤井委員

せっかくですから、この中央ペデってやっぱりこの骨になると思うんです。そうすると、骨の行き着いたところに階段しかないというのは何となく寂しいような気がします。ちょっと勝手なこと言っています。お金の話は、一切考えずに言っています。

○岡河座長

これは、この広島の場合には、あえて言えば既存のエスカレーターを使いながらペデは運営していくという考え方で基本的にはやるという理解を。

○永川課長

そうですね。

○世古課長補佐

接続された自由通路にも上下のエスカレーターが付きますので。

○岡河座長

なるほど。それがちょっと岡山とは違うというところなんですか。

○永井主任技師

岡山も南口の広場から上がってきて、エスカレーターがあります。自由通路を通られて、自由通路から向こう側の再開発のところ。

○岡河座長

そうですね、ANAのホテルのところのエスカレーターですね。

○永井主任技師

右へ行かれるとバス乗り場のところに。

○岡河座長

ええ、バス乗り場のエスカレーター。

○永井主任技師

一応今回の自由通路も、上りのところは当然上下のエスカレーターが付きますし、新幹線ビルに入ったところにも上下のエスカレーターは付いています。直接このペデにつながる場所は、直接、真っすぐ行って、今回の山の字のペデにつながるような形にはなるんですけども、新幹線ビルの中の自由通路のエスカレーターを使っただくことは可能だと思います。今回計画しているものですね。中央動線に関しては、そういうエスカレーター的なものは、中の新幹線ビル内に入ってしまうんですが、一応の対応は考えています。

○藤井委員

北の方の、この北の中央のペDESTリアンデッキの一番下のところのここに階段しかないというのは何となく、いわゆる通勤客というのほどこを通るんだろうという話なんです、そのときには、恐らく真ん中を通るでしょうね。こちらの方のアクティブインターシティの方を通過して、このエスカレーターを使ってというような動線にはきつとまらないような気がします。ならば真ん中につけたほうがいいんじゃないかという気がします。ここにあるからというのではなくて、こっちをむしろメインにするというような考え方というのがあるような気がしています。

○岡河座長

実はその正面にビルが建つ予定なんです。そこの関係はまだ分からないんですが、つまり、ビルの中にそのままペデが入っていく可能性もあるらしいんです。そうすると、ビルの中のエスカレーターを利用できるという可能性もあるというか、ちょっとこの辺が非常に難しいところなんです。

○藤井委員

そのときにビルの管理者が例えば11時で切りますというような話になってしまうと、やはり、どっちが主だという話です。

○岡河座長

そうなるともうどうしようもなくなる。

それはどういうことになるんでしょうか。先ほどの藤井先生の御質問に関しては。

○永川課長

今、藤井先生からあったこの中央ペデのエスカレーターについては、持ち帰って検討してみます。

○岡河座長

そうですね。検討の余地があれば、可能な限りお願いします。

○藤井委員

西側から北側に一本道でどんと来るわけですね。駅の上をずっと通って。

○岡河座長

そうです。これはもう中央の。

○藤井委員

ということは、この重要幹線じゃないですか。

○永川課長

実は、先ほど岡河先生からもお話ありましたが、今、二葉の里地区は、まちづくり、区画整理事業をしようということで、実は、このペデも本当に境界ぎりぎりいっぱいまで延ばすような形にしています。全く余裕もなしに。基本的にこの先がつなげていけるという形です。そういったところもありますので、そこらの地区のこれからの計画も見ながら、そこらも変わっていくんだと思いますが、そういった配慮も一応はしてるということだけは御報告させていただきます。

エスカレーターにつきましてはまた。

○岡河座長

今、真っすぐでL字型に、一番角に土地をもらっているんですよ。実は、真っすぐは、ひょっとしたらジョイントできるかもしれないということも含めてこの形というふうにやっぱり理解を。

○永川課長

中央もですし、この西側もなんですけども。

○岡河座長

ええ、西もそうなんですね、実は。

○永川課長

西もいっぱいいっぱいという形。

○岡河座長

そのときに、実は階段の段裏のデザインに少し気をつけてください。幾つか階段がある段裏です。要するに、段の裏が、こういう公共の建物の下が非常に寂しいし汚い。少し気をつけると随分違うのではないかと思います。幾つか階段がありますよね。

それから、エレベーターシャフトのガラスのあり方のデザインとか、透明感のあるエレベーターシャフトで、動いてるのが見えるということで、アクティビティを、駅の動きを視覚的にするとか、何らかのちょっとデザインの問題でにぎわいを創出する。それから、何か変に寂しい場所をつくらないことというようなことをぜひ検討していただければと思います。

藤井先生の分については、先ほどエスカレーターをまた検討していただくということです。

じゃあ、若本先生。

○若本委員

二葉山の眺望をということで9メートルを確保してるということなんですけど、実際に広島に来られた方が、例えば最近フェイスブックとかに載せられて、広島の景観はここが美しいということであれば、もう少し意識をしないと。ここでじゃあ記念撮影をしようと思っても、これ、どちらかというところ隅切りで内側に湾曲してますよね。外側に膨らんで、通路ではない形で何かたまりがあるとか、ここから見た景観が美しく、何かVサインでもして、広島に来たよというような形があればいいんですけど、余り、この形であれば、なかなかそういうふうなことで何か人がたまるとか、ここから見た景観がいいんだよというふうな意識をしたような形にちょっと思えないんですよね。

それと、これから6メートル幅が真っすぐ行ってるんですけど、この長い距離、広島で言うと、例えば商工センターのアルパークに行く真っすぐの通路、これがにぎわいを感じるかというところ、幅に比べると長さが長過ぎて、ずっと直線なんで、どこかに膨らみがあるとか何か変化があればいいんですけど、このCGを見る限りでも全くにぎわいを感じない。

先ほども今のホテルの脇を通ったんですけど、非常に無機質ですね。例えば、商店のいろんな横断幕とかそういうようなサイン計画がここの中でできるのか、お店が並ぶんでしようけど、どうもそういうにぎわいを感じるような印象が、真っ直線で人だけを通すというイメージがするんですね。そこらがどうかというふうにちょっと思いました。

○岡河座長

そうですね。少し何か真っすぐのところ膨らみがあるとか、もし可能なら、何か真っすぐな機能的な直線だけじゃなくて、プロムナードというか遊歩道という部分が少しあってもいいかも。これも少しキャンテレーバーのいろんな計算の関係もあると思いますけど。

○若本委員

それが素材であるとか。

○岡河座長

ええ、そうですね。

ちょっとついでに、私、ペデの東西のところ幅が大分違ってくるところ、今、角度でそのままついてますよね。あれ、もう少しアールでうまく続けていければ、多少まだそれで、少し歩いているときに多少なプロムナード的というか、何かそんなようなことにもなるのかなと思うので、それも可能な限りということで。今、ちょうど新幹線と中央ペデと東西ペデのジョイント部分がアールになってて、何か割ときれいかもしれないんで、これ

が全体、可能な限り、もしもアールで処理ができればそれもきれいではないかと思います。

及川先生、どうですか。

○及川委員

そうですね、今、やっぱりおっしゃられた。

ただ、ちょうど中央に対して右と左が、シンメトリーのような形で、ちょうど鶴が翼を広げたようになってるのに、こっちを全く除外して考えたデザインというところがやはり何かちょっとどうなのかなというふうに思います。

○岡河座長

今日通ったところと真ん中の。

○及川委員

やっぱり何か共通の視覚的な操作でもあれば、何かせっかくそういう一つの流れの、大きな流れの形がもうちょっと出てくるのかなという気がするんですね。

○岡河座長

これ、でも、恐らく工期の関係で右側を早くつくらなければいけなかったのかもしれない。打ち合わせの前であれができちゃったんですね、多分。

○及川委員

そうだと思います。例えば、さっき言った膨らみみたいな部分を両側に持たせて、ちょっと外へ飛び出して見えるようなエリアが両側にあるとか、何かそういうちょっと。

○岡河座長

両側に何かちょっと。

○及川委員

サインがそういうものであるとか、そうすると、それと、この両側に広がってるこのアールの形がうまく共鳴してくると、非常に全体としてのラインが見えてくるのかなと。

○岡河座長

そうですね。ここにも書いてある回遊性の感じが何かここでうまく形で少し表現できると。せっかくこういうデザイン検討会の中での。

○藤井委員

それ、両サイドの、例えば直線で今、結んであるバチ桁というか。あそこをアールにするという。

○岡河座長

もう少しずっとゆっくり曲がりにして、ちょっと鶴みたいな形になるのかな。昔の J A L の鶴丸のイメージみたいな。

○及川委員

そうすると、何か流れが出てきて、ちょうど鶴翼のような形になってスムーズに見えるのかなと。

○藤井委員

中央もアールがついてあるんですよね。サイドもアールをつけますか。

○岡河座長

じゃあ、中央もちょっと鶴首で少し曲げても。本当、意外にいいかもしれない。意外に何か昔の城下町らしくて、ちょっと何か昔の家紋みたいなとかそういうイメージというか、少しでも。非常に機能的に、とにかく使うものは使ってる、何かそういうのではちょっとやっぱり、せっかくね。何か味気ないし。

岩重先生、どうですか。

○岩重委員

この東西ペデと、それから今回できる新幹線の増築部、増築部に向けて雨が内樋の形になって流れていくんですよね。

○岡河座長

流れていく、ええ。

○岩重委員

そのつなぎ目というのはちゃんと打ち合わせをされて、設計されてるんですかね。

○安野技師

そこについては今の駅ビル、J R さんが考えられてる駅ビルとの計画で、今後ちょっと整合を図って、吹き込みがないような形で整合を図っていくことにしております。

○岩重委員

何かいかにもつなぎましたという感じにならないようなデザインを考えていただきたいと思います。

○岡河座長

そうですね。難しいけど、うまくいくとそれが本当に、ぞんざいにつないであるのとちよっとうまくつないであるので大分違いますよね。雨仕舞って難しいですよ、やっぱり、

雨樋の仕舞が、それもうまく一緒に考えていただけると。

ちょっと時間超えています。伏見先生、それから清田先生どうですか、せっかくですから、どうぞ。

○伏見委員

やはりまだ骨組みだけで、やわらかさとかにぎわいの演出、先ほどおっしゃったような、上から見たときのやわらかさと、それから立面で見たときのやわらかさ、それから、通るとき、動線のときのやわらかさというか、にぎわいの演出というようなことをこれから考えていかないと、余りに直線的であるなというのが第一印象です。

○岡河座長

なるほど。平面が今、少しやわらかくできそうだけど、立面だとどこまでできますか、具体的に。

○伏見委員

この断面を見せていただいたときに、やはりすごく直線的で、ちょっと正直バランスがというか、圧迫感が出てきます。天井高はあるものの圧迫感がやはり出てくるのではないかと思うので、このやはりジョイント、丸柱と屋根とのジョイントによる部分とかの少しやわらかさが出ないかなと思います。

○岡河座長

ここに照明を上手に組み込んで、中央ペデの右上の、5ページの右上の図なんです、丸柱の上にちょうどキャピタルのように何か構造体が乗りますよね。ここへうまく照明器具なんかを突っ込むと非常にきれいなものになる可能性があるのではないかと思います。少し御検討をお願いします。この形そのものを照らしてもいいと思うし、何かうまく使うと、いろいろアクセントがあるのではないかと、ちょっとそんな気もしています。

ちょっとやわらかいというのも、本当に少しのことですけれども、それは、逆に言うといろんな意味で、色彩のバランスとか、それから、あと形のやわらかさだけじゃなくて、何か雰囲気はやわらかさというのも、何かうまくやるとできるような気がするんですよ。だから、その辺で、手すりのところのガラスのところの、透明なだけでなく少しブラストをかける。若しくは、フィルムを貼るところでの何か意匠的な問題とか、いろんなことでまたできそうな気がいたしますので、また検討対象としていただければと思います。

○藤井委員

済みません。デザインじゃなくて、ちょっと水を差すようで申しわけないんですけども、

例えば、中央ペデで両サイドの空間ありますよね。

これ、非常に狙いはいいんですけれども、実際にこれ下、道路通ってて、何か上から落としたときに事故になるとかいうんで、結局何か蓋をしないといけないよという話になると、それはもうぶち壊しになるような気がするんですよね。何かその辺の対策というのはあるんでしょうか。

○岡河座長

そうですね。これは、私もこの落下物については、今、初めて藤井先生に、上から例えば何か落としたら、下に車が通ってる場合もあるので、結構怖い場所は怖い場所ですよ。これは、意図的に意識してやらないといけないと思います。それはどうなんでしょう。今までの例で、例えばそういう。

○藤井委員

普通はないとは思いますが。

○永川課長

横断歩道橋、たくさんペデがありますけども、いわゆる投棄物防止用のものを、柵をつけたりしたことはありません。こういう歩道橋に。それで問題になったということもございません。

○藤井委員

なければ問題ないんですけど、1件事故が起きると、あと全部できなくなってしまいます。どういうコンセプトも全部破壊されてしまうことになりますよね。ちょっとそれが心配なんです。別に故意に落とすという意味ではなくて、端を通っててハンドバッグが落ちたとか、たまにそういうふうなことがあって、下でたまたま車のフロントに当たって、びっくりして事故が起こったとか、そういうふうなことが起こると、また後々ややこしいなという感じがしたものですから。

○永川課長

そこまで想定してやった事例はないですね。

○藤井委員

ないですか。じゃあ、いいのかもしれませんが。

○清田委員

よろしいですか。

西側のペデのところの片持ちばりの屋根なんですけど、多分このままで道路の上まで行っ

ちゃうんですよね。そこだけ片持ちばりのままで、斜めの屋根が乗っちゃうわけですよ、西ペデの道路の上。

○永川課長

そうですね。

○清田委員

5 ページの位置図というところの西ペデというのを見てもらうと。

○永川課長

同じ角度で。

○清田委員

一番気になるのは、多分この場所というのは、多分皆さん想定されないんですけど、東から西に風が吹くんですよね。

○岡河座長

東から西に風が吹く。

○清田委員

風が吹く。この道路に沿って風が吹くんです、ここだけは南から北に入らずに。猿猴川のところから真っすぐ上がってくる道なので、多分、調べていただいたら分かるんですけど。

そうすると、多分、余り高くないんですけども、グランヴィアの低層部分の、6 階部分のところにもろに受けるんですよね。そうすると、この屋根の形で、西ペデとグランヴィアの間で4メートルぐらいの空間ができてるんですけど、全部そこから吹き下りるんだと思うんです。下に。

そうすると多分、今さっき、藤井先生が一番最初に雨仕舞の心配をされたんですけど、このデッキの屋根は多分雨よけには全くなりません。多分、歩道橋の上はもっとならないと思うんですけど、歩道橋の上も片持ちである必要はなくて、そこは何かちょっとデザイン的な流れの中で一方の屋根をつけてるんですけども、4メートルのペデに4メートルの屋根が乗ってて、風が吹く側に向けて空いてるというのは、多分最悪な屋根のつくり方になるかなと。吹き下りたら、今度下部にいる人に上からのダウンフローが出てきますので、下の人も歩きにくいのかなということももしかしたら起こるかもしれないという。そのすき間が非常に気になるんです、4メートルあるすき間のところが。

○岡河座長

グランヴィアとの間のすき間がね。

○清田委員

すき間が気になる。しかも受けて落ちる側の流れをつくる屋根の造りなんで、つくった後、そこが何か雨は漏るは、風は吹き込むはみたいな、もしかするとグランヴィアの正面玄関のところ、真上から風が落ちるような状態になりますので、もっと今よりもそれを助長するようなところ、何となくこのグランヴィアの正面、今、裏というのか表というのかは分からないですけど、そこに横1本ラインができて、グランヴィアさん大丈夫なのかなというの。駅側からすれば正面入り口ですよ、グランヴィアの。

その2階部分って、今、ちょうど外側が見える喫茶店をつくってるところですよ。その前に屋根がぼんと出ちゃうわけですので、何となくグランヴィアさんとしては余りいい思いをしないんじゃないかなと思うんですけど。それで4メートル多分離れてるんだと思うんですけど、視界的にはよくないですよ。そういった位置関係っていうのは。何となく心配のような気がする。高さとの関係で。高ければ今度通路の中を見ることになるし、低ければ屋根を見ることになるだろうと。何となくその位置関係がちょっと気になります。そこまで近くなって、もう少し離すと逆に風が吹き込まないのかなと思います。あくまで道路計画との兼ね合いでこの場所が決まっているというお話でしたので、なかなか難しいのかなと思いますけど、ややそのすき間が、すき間というか幅が気になるところです。片持ち屋根の傾きですよ。何かまだフラットのほうが影響ないかなと思います。

○岡河座長

まだないかもしれないという感じがしないでもない。

○清田委員

開いてると受けるから、フラットのほうがまだ影響がないと思いますね。

○岡河座長

ないかもしれない。逆に、フラットだったら、片持ちにせずにもう両方柱で細くしたほうが問題がないかもしれない。

○清田委員

乗せちゃう。そうすると、西ペデの方の上の屋根も機能する。

○岡河座長

そうですね。ここは二葉の里のいずれにしても見えない場所だから、要するに、東側に向かっての開放というのは余り意味がないかもしれない。その可能性もありますね。

あとはグランヴィアとの調整ができてるのかどうか、ちょっとこれも、逆に言うと心配というか、うまい形で、それは何かやっぱりコンセンサスがないと、グランヴィアとしてはせっかく今、正面を向いてるのに、その辺におかしなものをつくられてみたいなこと。

○清田委員

屋根材によっては照り返しで、午前中は日が入るわけですね。朝から。

そうすると、結局窓を閉めざるを得ないような状態になってくると、やっぱり売りの眺望を持ってる喫茶室が全く潰れてしまうような状態になるのなら、ちょっとそこの折り合いを。

先ほど岩重先生がおっしゃったように、新幹線のところの取り付けのところも、本当に取っつけた、新幹線駅とデッキみたいになっちゃうと本当に違和感が生まれてくるので、そこはやっぱり全体の周りとの建物との関係ができないと。

○岡河座長

そうですね。逆に、ここだったら、グランヴィアとしては逆勾配のひさしのようにしてくれたほうが有り難いかもしれないという部分もある。

○清田委員

だから、今さっき言われたように、立面形が見えてないですから、グランヴィアのどこの位置にどういうものが、構造物がついてるかというのがイメージできないんですね。あるのはあるんですけど、5ページの図になると、グランヴィアの建物との位置関係が全く出てないので。

○岡河座長

そうですね。これはやっぱりグランヴィアのエレベーションとのデザイン的な整合を検討をされて、さらにやっぱりグランヴィアとお話をされたほうがいいと思う。せっかく駅前の広島を代表するホテルなのに、公共がそれに対して何らかのデメリットのようなものをつくるというのはやっぱりいい方向じゃないかもしれませんね。

○清田委員

冬場なんか、今、ライティングして、ボリュームを入れたりして、もう本当に真正面につくってやるわけですね、グランヴィアとしては、駅を向いて。

○永川課長

位置関係とか柱位置も含めてなんですけど、一応グランヴィアさんとは話をさせてもらった上で、この位置で決めています。

○清田委員

ただ、この7ページの写真に、地図を見ていただいたら多分分かるんですけど、右側の部分ですけど、7ページの、グランヴィアの下のちょっと黒くなってるところは全部ガラス張りですよ、グランヴィアさん。

○永川課長

はい。

○清田委員

だから、その前に、その4メートル離れたところにどんと屋根がつくわけですよ。その高さとの関係で、これ多分2階の喫茶室ですから、1階は吹き抜けでちょっと高いですけど、天井が6メートルぐらいだとしても、何かちょうど目の前ですよ、高さ関係からしたら。

○藤井委員

場合によったらデッキからホテルの中が、喫茶店が見えるかもしれない。

○永川課長

今、グランヴィアの2階レベルとこのペデというと、グランヴィアのほうが1メートルぐらい実は2階レベルが低い状況です。

○清田委員

低いんですか。

○永川課長

低いんです。今、グランヴィアさん側からはペデの方へ、階段なりスロープなりでペデに上がるぐらいの構造になってきています。ペデの方が少し高い。

○清田委員

高い。だから1メートル高い。

○永川課長

1メートルぐらいの段差があるんで。

○清田委員

喫茶店に座ったらペデがちょうど真正面になるわけでしょう。

○永川課長

そうです。

○藤井委員

桁が見えるということがある。

○永川課長

桁が見えるような形になります。

○清田委員

横から壁がずっと見えてる。それが1メートルあると、1メートル全く眺望がないということになる。

○永川課長

一応そういうことで、この平面的な位置もあわせて、グランヴィアさんとは調整をしています。

○清田委員

断面の取り合いを書かれて、例えば喫茶に座ってる席からどういうふうに見えてるかというのをお店と多分協議をしないと、後で窓を開けたら壁じゃないかという話に多分なるんだらうなと思います。

○安野技師

今のグランヴィアさんの取りつけの分との関係は、まだ今、話を進めてるところでございまして、詳細に、今のペデの高さとグランヴィアの2階のレベルがかなり違いますので、その辺の取り合い関係を、高さをどういうふうにつけていくとか、ちょっと細かいところまでまだ詰め切っていないところがございます。

高さの整合を図っていく上で、当然調整が出てきますので、その辺の、グランヴィアさんの2階レベルから見た感じのことも考えながら、いろいろちょっと調整をさせていただこうとは思いますが。

ただ、条件として、うちのほうのペDESTリアンデッキも、常盤橋若草線の道路横断部に関しては、建築限界で4.7というところの高さ制限があったり、余り下げれないとかいうところもありますので、その辺と、あと自由通路との2階レベルで基本的には合わせてきますので、そういった始点と終点の高さの制限がある中でグランヴィアさんになるべく取りつけができるような高さ設定をしていく必要がありますので、その辺の細かなところについては、今後調整を図っていきたいというふうに考えております。

○清田委員

いや、取りつけ高さの問題を問題にしているんじゃないくて、喫茶店のとこの、要するに

今、外側に、透明ガラスになってるところに座ったときの視野がどうかという話ですよ。高さの話はどうにでもなると思うんですよ。視野が、目の前に全体的に壁が来るわけじゃないですか。それが目の前に来て、4メートル先にあるわけじゃないですか。それというのをグランヴィアさんが想定されてるかどうかというお話をしているんです。

○永川課長

高さ的なものも平面的な視野も、当然全部こちらのほうも示した中で話を進めていますので、また、今、喫茶店のところもどうしても、ちょうど喫茶室の付近で今、ペデとの連絡を考えられてるようなこともあるので、恐らく改造もあわせてされるんじゃないかと思えます。

○藤井委員

そのときに道路部が4.7メートルの建築限界がありますよね。おろしてきたというスロープつけなきゃいけない。そうすると、全部やるかという、何かどこかは必ずひっかかってくるような気がしますよね。そこは十分お考えいただいているかと。

○安野技師

はい。そこはやっぱりグランヴィアさんの2階レベルから見た目にも当然配慮した設計は必要だとは思ってまして、どうしても、ただ、そうは言いながらも自由通路の2階レベルに取りつけていく必要がある。そこから、極端に離れた高さ設定というのは当然できませんので、その辺の兼ね合いで、どこまでグランヴィアさんのほうの意向を聞き入れながらそういった調整ができるかというのを、話を詰めていきたいなとは思っています。

○岡河座長

そうですね。グランヴィアと非常に綿密で創造的な打ち合わせをしていただきたいと思います。いずれにしてもせつかくですし、よく向こうの意見も、こちらのほうのまた事情もお話しになって、最終的に何らかの最もよい回答をやっぱり探されるべきだと思います。一番多分影響力が大きいですよ。向こうもひょっとしたらそれで改装するかもしれないですよ。2階から中へ入ってという形にあそこを変えるかもしれないし。

○清田委員

玄関をつけかえる。

○岡河座長

ええ。だから、それも含めて何かグランヴィアとは相当綿密な打ち合わせをされる必要がある気がしますね。

○藤井委員

もう少しよろしいですか。

今、中央ペDESTリアンデッキは、5ページを見ると、テーパーが付いた、これ、ボックスじゃなくてI桁か何かを並べるわけですか。

○(株)長大

5ページの中央ペデの歩道部の断面の話ですよ。基本的に、都計道路を超えるところのスパンで決まってくるので、箱桁断面で今は計画しています。

○藤井委員

これはボックスでずっと抜くんですね。

○(株)長大

そうです。その斜めの、ブラケットの下のテーパー部分のようなイメージですけども、ちょっとまだ検討中ございまして、どういう構造でこの張り出しの部分进行处理して、下からの見え方をどう考えるのかというのを今後考えていきたいと思っております。

○藤井委員

分かりました。そうすると、そこでテーパーつけて角折れしてますけど、これだと場合によったら、下が何人通るかという話になると思いますけど、そこを見ると、中央ペDESTリアンデッキはもうとにかくバス停とか、そういうふうな話ですよ。だから、余り見ないかもしれませんが、そこの景観も少し考慮したほうがいいのかなと思いました。

○(株)長大

そうですね。わかりました。

○岡河座長

大体ペDESTリアンデッキにつきましてはよろしいですか、各委員の先生。

【議題2 広島駅自由通路整備事業】

○岡河座長

それでは、ちょっと時間は過ぎてるんですが、引き続き、次、議事の第2番目になります。議事の2番目といたしましては、「広島駅南北自由通路整備事業」について、御説明をお願いいたします。

○永川課長

それでは、広島駅自由通路整備のほうの説明をさせていただきます。

広島駅自由通路につきましては、現在ちょうど実施設計を行っておりますけれども、本日、前回の会議でいただいた御意見、そのうちの特に広島らしさの表現ということについて検討結果を取りまとめましたので、御説明させていただきたいと思っております。

資料のほうの1ページをごらんいただきたいんですけども、これは、前回の意見と対応についてということで整理をさせていただきます。

表のまず上の段の項目欄からですけども、前回の会議の中で岩重委員、また岡河委員のほうから「広島ならではの何なんだ」、「広島らしさをどのように表現するのか」、そういった御意見をいただいております。また、あわせて「鯉のイメージで広島らしさを表現したらどうなのか」と、そういう具体的なアイデアもいただいております。

この意見への対応ということで、この欄の右側の欄に掲載しておりますけれども、まず、天井につきましては、前回のパースでもお示ししておりますけれども、これは、前回のパースを3ページに掲載しております。2ページが今回のですけども、前回のパースでもお示したように、まず平和への思い、これを折りの形に込めるということで広島らしさを表現したいと、これについては、天井については考えております。

一方、床面、これにつきましては委員のほうからいただいたアイデアを生かすということで、新たに鯉と6本の川、これを使って広島らしさ、広島ならではの、それを感じさせる空間にしたいというふうに考えております。

資料のほう、1ページでは、中央の対応のイメージの欄になりますけれども、まず、鯉の表現につきましては、鯉そのものを具体的に示すのではなくて、鯉と気付いて伝わるような、そういった表現と、そういったものを通して、具体的にはこの資料の1の左側にありますけれども、約60センチメートル四方の中に鯉の輪郭、またうろこ、水面、そういったものを3センチメートルのモザイクタイルを使用して表現することにしております。参考までに、使用する予定のタイルのサンプルを前のテーブルのほうに用意しておりますので、タイルのテクスチャー、色合い、そういったものをごらんいただけたらと思っております。

大きなタイルがいわゆる川をイメージするのに使ってるもの、寸法が小さいほうのタイル、これが鯉を表すときに使っていきたいと考えているようなものでございます。

また、この鯉の配置につきましては、今のところ2カ所の案内板の周辺、この案内板は人が集まるということが想定されまして、そういった場所に配置しまして、鯉が集まっている風景と人が集まっているというもの、それを重ねるということで広島らしさやにぎわいが感じられるものと考えております。

次に、6本の川についてですけれども、これは、自由通路を横断するような形で、60センチメートル四方のグレー色のタイルを使ったラインを、ちょうど広島デルタを流れる6本の川を表現するというので、川の多い広島らしさを感じられるものと考えています。この下のものですが、6本のラインというものです。案内板にも、これ、資料の右側になりますけれども、同様のラインを入れるように考えています。大体そういったところが広島らしさへの対応ということになります。

2ページ目、3ページ目のほうを見ていただきたいと思いますが、2ページ目が、今、説明しました広島らしさ、広島ならではの踏まえたイメージパースになっております。案内板の周辺の鯉、また、あと6本の川を表すグレーのタイル、そういったイメージを見ていただけたらと思います。3ページ目は前回お示ししたパースになっておりますので、比較して見ていただければちょっとイメージが変わってるのがよく分かるというふうに思います。

参考までに、次の4ページ目には少し出力を大きくした鯉のイメージ、それと、5ページ目のほうに自由通路の平面図を掲載しております。この5ページ目のほうでいわゆる6本のライン、また、今現在、この案内板は2カ所予定しておりますけれども、その周辺に鯉が集まってきたようなイメージをこれで見いただけたらと思います。

以上で、簡単ではございますけれども、広島らしさに関する説明を終わらせていただきます。

なお、前回の会議において、各委員の方からたくさんの意見をいただいております。例えば自由通路内、この天井にしても白の使い方、白が基本でということなんですけれども、この白の使い方、また点字ブロックの黄色、これはどうなのかと、そういった御意見をいただいております。

白につきましては、御指摘のとおり本当に汚れやすい真っ白ということではなくて、汚れが目立ちにくい白をこれから検討して、選択していきたいと考えています。

また、点字ブロックの黄色につきましては、やはり弱視の方にはこの黄色が分かりやすいということがございますので、この黄色いブロックのほうは、市としても採用していきたいというふうに考えています。

また、ベンチ、あるいはストリートファニチャー、サイン計画、それをどうするのかという御意見もございましたけど、これについてはまだ、実は、このパースでもありますが、隣接してJRの店舗計画であるとかそういったものがまだちょっと確立されていな

い、まだ今、設計中ということもございますので、そういったものの動向を見ながら引き続き検討していきたいと考えております。

また、こういった点についてはまた進捗具合を見ながら御報告していきたいと考えております。大体以上のようなところでございます。

○岡河座長

はい、どうもありがとうございます。

それでは、ただいまの説明に対しまして、各先生方、御意見はいかがですか。

及川先生、どうですか。

○及川委員

鯉を入れた、ちょっと人の集まる場所に鯉がやってきた感じはある。ちょうど池や何かで、池の端っこに人が立つとそこへ鯉が寄ってくるような感じで面白いなと思います。ちょっと1枚1枚の濃いグレーのところとほかの白いタイルのところのやっぱりつなぎ目がちょっと目立ち過ぎるかなと思います。

○岡河座長

黒が強いのですかね。

○及川委員

ええ、グレーが目立ち過ぎるかな。

○岡河座長

でも、モザイクでやるというのはおしゃれですね。

○及川委員

ええ、と思うんですけど。

○岡河座長

後はやっぱり、こういうものは実物つくってみないと分からないんじゃないかな。

○及川委員

そうですね。

○岡河座長

どうですか、今の感じ。今のこの素材感として、ちょっとモザイクタイルが使っているというのは。

○及川委員

いいと思いますね。

○岡河座長

大変何かイタリアの教会みたいで非常におしゃれな感じで、あとは色とかバランスとか、ちょっとした、これはもう非常に高度なものですよね。

○及川委員

そのことがちょっと気になるのかなという感じで。

あとはやっぱり店舗とのつなぎのところがどう見えてくるのかということ、やっぱりサイン計画もそうですし、あとは、店舗の看板というか、そういうところの出し方をどういうふうにするかということと結構つながってくるんじゃないかなという、それはやっぱりまだ課題として残されてると思います。

○岡河座長

あとは、平たく言うと、この鯉のところの方向性というのは皆さんどうですか。この方向性ということにつきましてはどのような御意見でしょう。

岩重さん、どうですか。

○岩重委員

私は、広島らしさで鯉が出てきたときに、鯉を使うのは難しいんじゃないかなという思いがあったのと、やっぱりこれ鯉に見えるのかなという、何でここにこんなものがあるのというふうに、知らない人が見たら見えるんじゃないかなと思って、6本の川をイメージしたこの線を入れるのは、色味が変わるということでいいんだけど、私、この鯉についてはちょっと疑問を持っております。

○岡河座長

難しいですよ。私は、今のこの拡大写真の絵だったら要らないし、やらないほうがいいんじゃないかなと思います。難しいな。これもデザインの問題ですからね。及川先生、デザインのほうは。どうですか、せっかく。

○及川委員

一応、この間見て相談には乗ったんですけど、やっぱりつなぎ目のところの問題というのがちょっと気になるかなという、さっきのグレーの濃いところと周りのところという。要するに、60角の部分だけが浮いて見えちゃうと何にもならないなという。全体の中にどう溶け込んでくれるかなという。

○岡河座長

せっかく広島には市立芸術大学があるんですから、ぜひ、芸術大学の何か成果としてと

というのは、物語としては、私やっていたらいい。

○及川委員

だから、逆に言うと、むしろこの周辺を、60角のところだけモザイクでやるんじゃなくて、間をつないで少し広い範囲でやっていくと、もうちょっときれいになるのかなというふうに思いますけどね。どうしても今、60のモザイク画をぽんぽんと落とすだけになってるので、それが、僕が見てて気になるよなところなんです。これだけだと。

○岡河座長

この周りだけ少しモザイクでという方向というのは、そっちのほうがひょっとしたらうまくいくかなという。

○及川委員

という気がします。

○岡河座長

例えば、6本の線も誰も川とは分からないんですよ。それより何か、何もないとね、少しその辺で案内板の周りに何か、普通ならどうしても工業材料で、ペイズをするんですけど、何かちょっとモザイクなり何なり手で作ったものが。

○及川委員

あるといいね。

○岡河座長

しかも、それなりに何か物語というふうになればうまくいくかなという。

○及川委員

今、ちょうど1枚1枚何か切り取って何か蓋をしたような感じになってるので、ちょっとそれが気になるよなところがありますね。

○岡河座長

僕も、今、ちょっと何か強過ぎちゃって、少し何かこのままだったらやらないほうがいい。逆はないほうがスッキリしていい。

○及川委員

何もないけども、質感的に、このモザイクの質感があるタイルの面がつながっていて、その中に模様が見えてくるんだったら、それはそれで面白いかなと思います。ちょっと今のところだと、まるでカッティングシートでモザイク画をこうやったのを上に貼ってるみたいにならなくてもこれで見ると見えてきちゃうことがちょっと悲しいというか、難しいで

すね。

○岡河座長

何かモザイクって全部残ってなくて、少し剥がれたのが一緒にあって、剥がれたのもあって、それでよかったりする部分がありますよね。

○及川委員

だから、絵になってる部分と、全部が絵ではなくて、絵になってる部分と、そうじゃない部分がどうつながっていくかというところがやっぱりこれの一番難しいところなのかな。

○伏見委員

抽象と具象のバランスがちょっと難しい。

○岡河座長

難しいんですよ。それが難しいんですよ。

○伏見委員

今、川は抽象表現でスタイリッシュにあって、鯉の部分が中途半端に具象的であり、形もすごく有機的というよりは、まだ形が整備されていないので、これから及川先生を中心にどんどんコイの形を整理していく、抽象的にどう表現していくかというところと、それと配置をしっかりとやっていかないと、逆にごみに見えてしまう。

○岡河座長

そうですね。

○伏見委員

はい。平面でのこの動きというか、ストーリーづけをどうしていくか、バランスをどう、点として配置していくかってところが重要かと思います。ライン、線で川が表現されてますので、鯉は点で、その点をどうこの川に絡ませていくかというところの平面計画がやっぱり画面構成として重要だと思います。それはやはり及川先生が御専門なので。

○岡河座長

そしたら最後はもう鯉がなくなっても、モザイクを逆に、モザイクで、そこだけモザイクにしてというのも結構いい。もう物語は離れちゃうんだけど、物語の途中でモザイクという手法は出たと。これでうまくいくなら、形は本当に難しい、デザイナーも、ちょっとしたことですからね、だけど、モザイクでやるということになれば、余りストーリーと関係なく質感だけで。

○及川委員

アクセントが出れば、それでかなり変化が。

○岡河座長

ええ。それでもかなりきれいかもしれません。品のある駅になるかもしれないですね。

具体的な形をやっぱり実際にグラフィックのようにするほうが割と本当に難しい作業になりますよね。アイコンになるから。それよりテクスチャー感だけ、こういう案内板の周りはモザイクでやりましょう、それを混ぜてやるということにすれば、そんなにひどい失敗にはならないような気がする。なおかつ、割と品のあるやり方だし、何かモザイクという材料の中に、変な話ですけど、まるで人がそこを手でつくった感じ、そういうものを感じますよね。それでいくというのも何かありかもしれない。

○及川委員

いずれにしても、僕、まだ具体的なイメージは湧かないんですけども、この案内板のあるところと、それが、周りに川があるところがちょうどこの案内板にあるところが、さっき言った護岸のような、何かそこに陸地があるような形で、そこに向かってモザイク状に何か一つの変化が見えてくるというようなやり方は一つありなのかなとも思います。

○伏見委員

もう1点だけ。やはり線だけじゃなくて点が必要だと思いますね、そこ、アクセントとして。

○岡河座長

はい。アクセントが、だから案内板のところをアクセントにするというのは大変よいことではないですかね。ぱっとあそこへ行けば地図が見えるとか、案内が分かると。そこだけテクスチャーか何で変わってるというのは何か悪いやり方ではない。

それは一番難しい問題で、ストーリーの。

○藤井委員

これ、照明はどうなるんですか。

○岡河座長

今、ちょうどそれも検討中なんですよ。清田先生が幾つか照明については何か言われてましたよね。資料で、下が開いていて両側から光が入るので、西日と東日が入ってくる。

○清田委員

入ってくるんで、西日と東と両方受けるんですね、これを見ると、だから、すごい中間

の照明が非常に難しいと思うんですよね。真昼はいいですけど、朝方と夕方はやっぱりオレンジ系になると、どうしても入ってきます。

○藤井委員

ここのパースには全然、照明がどこにあるのかというのが何となく分からなくて。

○清田委員

多分、この位置関係からすると、西日は受けられないような屋根の構造になってて、東側だけは午前中だけは日を受けるようなつくり。

○岡河座長

そうですね。西は多分グランヴィアで。

○清田委員

ええ、グランヴィアでまず入ってくることはないと思います。それによっても下のイメージが随分変わってきますんで。

○岡河座長

光が、何かテクスチャーが変わってるところで別の光り方をするというふうな場所として、具象というのは本当に難しいんですよ。具象を形にすると、大体ゆるキャラみたいになっちゃうんですよ。

○清田委員

ただ、でも、24時間通路だから、やっぱり安全確保というのがあるわけですよね。

○岡河座長

いや、夜の照明は一応真ん中に、今、ちょっとパースにあるんですけど、真ん中に照明器具つくんですよね、中央のところに、基本的には。

○清田委員

この柱の上につく。

○岡河座長

ええ、柱の上に。これが照明器具だと思います。

○藤井委員

じゃあ、途中にライトがつくんですか。

○岡河座長

ええ、真ん中にずっと、柱の上に照明がつくような形じゃないですかね。

○岩重委員

下から反射板で照らしてるんですね。

○岡河座長

そういうことだと思います。上に。

○永川課長

天井を照らしたような間接照明なんかも今、検討しています。

○岡河座長

きれいだと思いますよ。上は折り天井ですからね。間接照明、下から照らすと非常にきれいだと思います。

○藤井委員

下じゃなくて上のほうがきれいだろなって思います。間接だと。

○岡河座長

これ、何か広島らしいということと、どこへ持っていくかだけで、デザインの問題は、これもう及川先生にアドバイスしていただいて。

○及川委員

はい。

○岡河座長

でも、何かモザイクでいくというのは、されたらどうですかね。本当におしゃれだと思います。

○及川委員

私もそれは思います。

○岡河座長

何か広島、廃墟から立ち上がった街なので、何かそういう廃墟から立ち上がったという、何かそういう感じ、人が手で積んでつくった街みたいな感じに少しすれば、大変高度な、知的な広島らしさということになるかもしれませんね。

○及川委員

この3枚目のと2枚目のと比べてみると、明らかにやっぱり2枚目のほうは変化があって。

○岡河座長

やっぱり何かありそうですけどね。

○及川委員

これは確かなんで、そのあたりの狙いはやっぱりあるんじゃないかなと思います。

○岡河座長

このコンピューターのグラフィックだと、こういう実物の質感ってすごい、何か出ないんですよ。だから、やっぱり一応原寸で何かちょっと学生と先生が組んで。

○及川委員

こっちのも大分違いますもんね。

○岡河座長

全然違うんですよ。だから、本当それで原寸で組んで、ちょっとしていただいたら、ぜひ芸術大学の何かやっぱり広島、プロジェクトとしてもしもやっていただけたらよいのではないかと。

○及川委員

はい。

○岡河座長

ほかに、委員の方で何か御意見ございますか。

では、どうもありがとうございました。一応二つの議題ですけれども、二つとも貴重な御意見、方向性を探るべく、本当にアドバイザー会議らしい、今日は意見交換ができたと思います。どうもありがとうございます。

一応、本日予定しておりました議題については以上です。お疲れさまです。

では、平成24年度第2回広島市都市デザインアドバイザー会議を終了、議事進行を事務局にお願いいたします。